



八代集抄

古今席

特別
イ 4
3163
104(1)



古今和歌集 二十卷

奇負八重花抄云子首有歌歌子子九十九首

京極中納言入道 定家卿統云古今序云延喜六年四月

十八日紀女則紀貫之九河内躬恒云忠家卿撰之云

志云云件集の中ニ延喜六年四月十八日云云

又云云件集の中ニ延喜六年四月十八日云云

是事云云序云云云云云云云云云云云云云云云云

延喜六年四月十八日云云云云云云云云云云云云

延喜六年四月十八日云云云云云云云云云云云云

延喜六年四月十八日云云云云云云云云云云云云



あるべき事ありしよりわれ等も其類なり

撰者

紀貫之の著元天皇乃成宋武内宿禰より十七代乃苗裔
あり。父乃り乃紀行紀氏系當り者覺忠なり。父轉
乃男長谷雄乃甥とありてある

古今序ありし中出下預とあり。延長八年より太皇
但ど。紀氏新撰の自序より主蕃頭從五位下とあり
け新撰乃序に貫之乃りきりきり本朝文粹より
入り。大井の初書れ和ありきり序一書りきり
より。古今著聞より和。和書と日記にありきり

やうにありきりこれ又けりきりなり。家集
一書二十六人集乃りなり。作者部類よりきり
天慶八年二月廿八日なり。著りきり九年卒
貫之和あり。風林

古今著聞序に云。先師様本大史に。貫之の人の世
とありきりきりきりきりきりきりきりきり
師とすきりきりきりきりきりきりきりきり
定家と近代著きりきりきりきりきりきり
及びきりきりきりきりきりきりきりきり
餘情狀なり。序をよききりきりきりきりきり

濡れをうくるもぐさひきりけきよむく
 八雲居かえ後頼かえはうきこひ一首を十月廿日
 よみりしにり。されともぐさうきや書る處
 に十月廿日はうきこひにけきよむく。毎八雲居
 よみりしをりしなり

公曰新撰髓腦云云云々新恒ハ中比乃上も也。今乃
人乃よむいげ人乃あがれなり。書く方、^{ダイナウ}新しいね
妹がわいげいそ乃良れに風定こもるなり。
今はね、我者乃花んぞこもる人ハちわえんわ
やまうりなり。氣國あがれにわらわなり。

年月をとりじふといふらんけきハ書くといふ
 哥乃中れ本辭了了とつひたり
 奥儀ハ^{アラギ}は輔也云風乃ハおきりきりふ豆田ふも
 一々君独ゆらんけきを書くハ音乃本といふり
 新井睦おりの後成ハはくまのいふよの字
 にはる山乃われあそもふわれぬれこれそ
 本とすといふをのまかり

成吉思汗云。朗誦江表文。四條大納言云。
六条宮具平公兼光
上御云。貫之ハ奇人也。宮云。人尤モ乃ゾ一ツナ言
云。三ノミヨリト。コノ秀奇十首は日メ合セ

お。八首人九指。一昔書く指。げあ持てゐるおは
うとつと下れい郭まあく一こさうゆるるちのめ、
清が紙を枕事ききアリヤフコノ帳通明針。書きぐるみ炊いせんう
け針乃やませうすく奇しくなるんよやめもし
らんじかうし。そするら書く家集よりわいてるわあ
やしもきぬ大えうりゆりとあをばうぶーやえ
ごうろうあのく球もなるとねをわかんもあん
きとちりやとひさうー読むーす名残うで
ユエカラチ
凡河内新垣 凡河内に姓。日本紀神代卷に。凡河内
アミツヒヨヲノミヅト天は彦根今の苗裔といふ也。左今序にハお甲斐系同

と何々。及撰集御書は、延喜元年正月所あるに
見たり。作者部類五位なり。延喜元年二月所あるに
淡路権振と宗義記の八幡氏の孫謀利の子と家集
世六人集の中よりなり。わきの貫之と對し古来傳と
時、中納言明抄云二条大相國檢非違使別當とさこ
えくす時二条師と二人今はなつていふことありあま
と強きもそわがやよとめく乃復をばうとて
ふれり。ついでとある。いかにあらざられ肺い
づくせひ。後叙りかゝる事なれば後叙して
いづくところなればといふ事はよくある。

せむしきとておもひにふはひがふふらなる人
 いふにふしきとておもひにふはひがふふらなる人
 紀友則 古今序より大内記とあり作者部類六位
 ありけり宮内権少輔有朋が男とて重く從
 兄才也 紀氏系當より 撰集乃ちふらふ事なりけり
 け集乃ち名傷乃部より何れ家集世に人集の序に
 云生忠家 泉大將定國乃に兄弟なり一事大和物
 治より之ゆ近衛耆長よりと未つ府生よりなり
 といふ集の短きよしゆちききあたり乃ちなりを
 くれに秋めくらしきあざしきわくふらなる人

いふこれなり作者詔ありいと恒り了とて今迄に傳
安國の男と。松遺集乃中病の事と云ふをかりしやと
よき忠告をいへといふは乃和歌九条より人丸光
かめくともありなりうと云ふ奇と並び今上品乃
再とて之をあら秀昇林大畧にも書けり。古今著
聞、^{イニヤ}五陰明門院中宮乃比阿字乃歌を出し
人こり中宮をすをわけて事なり。定家公家經心
あぶらなしく召するま。古きよしを明のはれ
ちく乃ト別なり曉つたりも病ひなりけきを
商人同くさくものせし事なり。月心乃程俊

其あつたに、まはた、さう、さう、まゐる、
 百人一首、おう、い、は、ま、お、院、定、家、お、院、信、城、
 左、今、集、乃、中、乃、中、乃、中、撰、出、く、ま、い、つ、
 動、う、り、に、定、家、と、密、院、と、い、ふ、の、は、お、う、
 乃、う、い、ま、う、せ、ま、い、ま、後、院、と、い、ふ、ま、う、の、費、
 う、り、い、ま、ま、の、末、に、い、ま、ま、う、い、ま、う、
 ま、う、い、ま、ま、い、ま、乃、院、家、動、う、定、家、つ、い、
 明、乃、う、い、ま、う、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、
 く、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、
 け、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、

有^リ志家^シ和^シ平^シ十^ツ林^イを述^ツ作^スし^テ一^ツと^ク先^ニ師^ト土^ニ
 列^ニ刺^シ史^ヲ叙^ス古^ニ今^ヲ并^ラ以^テ自^ラ勉^ムと^ク土^ニ列^ニ刺^シ史^ハ其^ノ之^ヲ
 け^ニゆ^キと^ク之^ノ師^トと^ク一^ツ方^ニ家^ノ集^ヲ世^ニ六^ツ人^ノ集^ヲの^ノ中^ニと^クあ^リ
 古^ノ今^ノ此^ノ本^ニ

定家^サは自承^カ乃本之^ツ世なり。家布^ツとて。不^ツ有^ツ極^ツと
 後^サ醍醐^カ院乃^カ嘉祿^カ二年四月九日^カの世なり。と
 録^カ事^カといふ。これなり。いふ。序^カなり。とて。いふ。序^カ
 あり。後^サ醍醐^カの世なり。とて。いふ。序^カなり。とて。いふ。序^カ
 貞應^{チヨウオウ}二年七月^カなり。とて。いふ。序^カなり。とて。いふ。序^カ
 将^サ来^カ之^カ秋^カなり。とて。いふ。序^カなり。とて。いふ。序^カ

序は、^{（一）}
 序は、^{（二）}
 序は、^{（三）}
 序は、^{（四）}
 序は、^{（五）}
 序は、^{（六）}
 序は、^{（七）}
 序は、^{（八）}
 序は、^{（九）}
 序は、^{（十）}

正安と云ふ。玉寶ありて、
其故ハ定家ノ本を以てし、時法寺を西指し、
了翁とくして、将米家の校本と興出ふ明は
るゝなり。二条家を習うんとし、京極黄門の
乃本を用ひて、あつても、やゝ
不明なる所。中比左と乃時元実ともは傳りて
あるものなり。

[illegible]

おを、まゝ見しごとく八代集抄乃教をその一節と
彼師傳乃すちあらうれとの訓讀をもつて片々
うゑと傳へられたとこれにこそ驚きありはなれども
此抄乃中ハ僻案抄所記の事動等ともなりお物も
かゝる所といふ出づるを傳り小古とて學問の
よりこせりよびお乃うに其味よみぬこと
ハ口決と出るべく人々を惑はせしむるもの
あるやと也れ家傳に説く別なりお出でる
わうのやうに彼古抄乃お物とさうなる



1870
 1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900
 1901
 1902
 1903
 1904
 1905
 1906
 1907
 1908
 1909
 1910
 1911
 1912
 1913
 1914
 1915
 1916
 1917
 1918
 1919
 1920
 1921
 1922
 1923
 1924
 1925
 1926
 1927
 1928
 1929
 1930
 1931
 1932
 1933
 1934
 1935
 1936
 1937
 1938
 1939
 1940
 1941
 1942
 1943
 1944
 1945
 1946
 1947
 1948
 1949
 1950
 1951
 1952
 1953
 1954
 1955
 1956
 1957
 1958
 1959
 1960
 1961
 1962
 1963
 1964
 1965
 1966
 1967
 1968
 1969
 1970
 1971
 1972
 1973
 1974
 1975
 1976
 1977
 1978
 1979
 1980
 1981
 1982
 1983
 1984
 1985
 1986
 1987
 1988
 1989
 1990
 1991
 1992
 1993
 1994
 1995
 1996
 1997
 1998
 1999
 2000
 2001
 2002
 2003
 2004
 2005
 2006
 2007
 2008
 2009
 2010
 2011
 2012
 2013
 2014
 2015
 2016
 2017
 2018
 2019
 2020
 2021
 2022
 2023
 2024
 2025
 2026
 2027
 2028
 2029
 2030
 2031
 2032
 2033
 2034
 2035
 2036
 2037
 2038
 2039
 2040
 2041
 2042
 2043
 2044
 2045
 2046
 2047
 2048
 2049
 2050
 2051
 2052
 2053
 2054
 2055
 2056
 2057
 2058
 2059
 2060
 2061
 2062
 2063
 2064
 2065
 2066
 2067
 2068
 2069
 2070
 2071
 2072
 2073
 2074
 2075
 2076
 2077
 2078
 2079
 2080
 2081
 2082
 2083
 2084
 2085
 2086
 2087
 2088
 2089
 2090
 2091
 2092
 2093
 2094
 2095
 2096
 2097
 2098
 2099
 2100
 2101
 2102
 2103
 2104
 2105
 2106
 2107
 2108
 2109
 2110
 2111
 2112
 2113
 2114
 2115
 2116
 2117
 2118
 2119
 2120
 2121
 2122
 2123
 2124
 2125
 2126
 2127
 2128
 2129
 2130
 2131
 2132
 2133
 2134
 2135
 2136
 2137
 2138
 2139
 2140
 2141
 2142
 2143
 2144
 2145
 2146
 2147
 2148
 2149
 2150
 2151
 2152
 2153
 2154
 2155
 2156
 2157
 2158
 2159
 2160
 2161
 2162
 2163
 2164
 2165
 2166
 2167
 2168
 2169
 2170
 2171
 2172
 2173
 2174
 2175
 2176
 2177
 2178
 2179
 2180
 2181
 2182
 2183
 2184
 2185
 2186
 2187
 2188
 2189
 2190
 2191
 2192
 2193
 2194
 2195
 2196
 2197
 2198
 2199
 2200
 2201
 2202
 2203
 2204
 2205
 2206
 2207
 2208
 2209
 2210
 2211
 2212
 2213
 2214
 2215
 2216
 2217
 2218
 2219
 2220
 2221
 2222
 2223
 2224
 2225
 2226
 2227
 2228
 2229
 2230
 2231
 2232
 2233
 2234
 2235
 2236
 2237
 2238
 2239
 2240
 2241
 2242
 2243
 2244
 2245
 2246
 2247
 2248
 2249
 2250
 2251
 2252
 2253
 2254
 2255
 2256
 2257
 2258
 2259
 2260
 2261
 2262
 2263
 2264
 2265
 2266
 2267
 2268
 2269
 2270
 2271
 2272
 2273
 2274
 2275
 2276
 2277
 2278
 2279
 2280
 2281
 2282
 2283
 2284
 2285
 2286
 2287
 2288
 2289
 2290
 2291
 2292
 2293
 2294
 2295
 2296
 2297
 2298
 2299
 2300
 2301
 2302
 2303
 2304
 2305
 2306
 2307
 2308
 2309
 2310
 2311
 2312
 2313
 2314
 2315
 2316
 2317
 2318
 2319
 2320
 2321
 2322
 2323
 2324

やまとうへひとのなをいねとく
よめはうへひのなをいねとく

[illegible]

馬の年やいふに力なきにけりなほしよけりありやうに
無端無為なる人見たるにうしろをすゝめたる人を見れば
時をうしろをすゝめたる人を見れば

愚業の年乃後入修後乃後入
これやいふにうしろをすゝめたる人を見れば

愚業の年乃後入修後乃後入
愚業の年乃後入修後乃後入

愚業の年乃後入修後乃後入
愚業の年乃後入修後乃後入

いふ人あへて
けりなり我を
代にす
らんされども
乃本乃我

乃本乃我
いふ人あへて
けりなり我を
代にす
らんされども
乃本乃我

いふ人あへて
けりなり我を
代にす
らんされども
乃本乃我

いづるもいづるもあ
はれりなり世

第五雅

とつり牙の奥奥に

山并乃心きも如きす

けしむのちさき世のち

かろくすゝかろくすゝ

子之見也

諺云 同字不同

寒くして所とて

是乃其子也

卷之六

子(五)子(六)

乃て其の世をハとい

子方

卷之四

15

いほり乃事世あり世いりり

ひとちうのちうちうち

とくち

いんぎものきりぎりすを

ふさふさけし乃心さるるよかあえす

あやしい夢はくらく

何れもく、方々見たりと云ふ

ちへと鳳うねふ

三つめを求むるやうなりと云雅に好うと云ふはむすべしと

とあへて山樑のうゑをわきよ（きよ）みけり、草薙國の奇

事九二足計汪公但口竹一也

物於墨見於山子乃哥清懷公乃哥

あゝ何んぞねー 僕も世よりせいの身賊の袴のやうと

賤者乃いふ事なり

雅にまうと云い事ありのり
 愚案に於て多しと云ふ

子响當乃密りめとてしつゝにわのうへと本とす

一在江心毛詩序有之

事不足人
物多事人
之師不
能之夢
之

卷之四

上

このまゝにむしとすなり市子三孝の

卷之四

各處之官民

己子

とひたりと乃か人めまへしきとて
まひも乃何しと若野乃此とてそ
人丸のさうへちとのきんか人へ

尋の所。故に今このおまの瑞光寺へ出せり。人丸のふりへて
 して、御いへる。と。いふ。寺へ入。て。口。水。堂。殿。に。人。丸。乃。賛。は。一。条。
 御。國。の。ま。ま。寺。より。奉。と。り。ん。吉。野。乃。極。や。と。り。や。ま。と。こ。り。
 何。と。や。あ。や。と。も。し。被。人。丸。の。ま。ま。に。や。り。と。う。奉。の。う。こ。ま。ま。と。
 き。こ。し。ふ。り。又。集。り。て。わ。う。を。も。序。ふ。又。奉。り。か。く。も。う。と。あ。
 ま。は。り。ま。う。り。何。と。き。み。も。り。す。新。古。今。乃。序。を。ま。ま。ま。こ。い。
 す。神。を。い。ふ。乃。郭。と。い。は。げ。も。集。り。寺。に。て。す。と。く。天。皇。
 を。り。な。み。の。ま。ま。に。い。は。る。や。又。月。や。今。神。を。い。ふ。乃。
 や。ま。郭。と。い。は。人。と。知。り。何。と。き。こ。し。と。う。と。り。

又やまのふりり人とり人あり
 ういよあやきくくきりりり
 いとまろそふ人のひきはく人
 かくひの人そ人丸のききよ
 えんことわくくきんそく
 あくひのこのはくくくく
 おききくれてくるりりり
 おきき中やくくきん人丸梅の
 花うれしくくくくくく
 きり雪のききくききく

又やまのへりへり人とりよ人あり
うゝはあやきくく人ありあり
いとまろそ赤人のあやまゝ人あり
かゝくへり人そ人丸のきとよゝゝ
えんことかゝく人そ人あり
あゝ乃々とのけうゝゝゝゝ
おききゝれてあゝゝゝ
おきき中やゝゝゝ人丸極の
花うれゝゝゝゝゝゝ
さゝ雪乃あゝゝゝゝゝ

八代清和より四千三百十五首^{三十一}首^{九首}まで二百五十一首^一也但万葉有兩説奥五
十首或云云然^{ラハル}考謙^{ヨミテ}清時撰^{ラハル}一^{ヨミテ}と云ふ^{ヨミテ}と云ふ^{ヨミテ}の^{ヨミテ}序^{ヨミテ}の^{ヨミテ}と
平城清時^{ラハル}肯^{ヨミテ}尾^{ヨミテ}で^{ヨミテ}の^{ヨミテ}と^{ヨミテ}撰^{ヨミテ}と^{ヨミテ}る^{ヨミテ}の^{ヨミテ}や^{ヨミテ}も^{ヨミテ}云^{ヨミテ}く^{ヨミテ}萬^{ヨミテ}葉^{ヨミテ}ハ^{ヨミテ}孝^{ヨミテ}謙^{ヨミテ}
乃^{ヨミテ}清^{ヨミテ}時^{ヨミテ}より^{ヨミテ}年^{ヨミテ}ハ^{ヨミテ}百^{ヨミテ}と^{ヨミテ}せ^{ヨミテ}あ^{ヨミテ}る^{ヨミテ}と^{ヨミテ}耶^{ヨミテ}撰^{ヨミテ}定^{ヨミテ}せ^{ヨミテ}平^{ヨミテ}城^{ヨミテ}の^{ヨミテ}清^{ヨミテ}時^{ヨミテ}より^{ヨミテ}
延喜より世^{ヨミテ}千^{ヨミテ}代^{ヨミテ}を^{ヨミテ}十^{ヨミテ}代^{ヨミテ}と^{ヨミテ}か^{ヨミテ}り^{ヨミテ}ち^{ヨミテ}く^{ヨミテ}何^{ヨミテ}れ^{ヨミテ}り^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}孝^{ヨミテ}謙^{ヨミテ}
の^{ヨミテ}延^{ヨミテ}喜^{ヨミテ}より^{ヨミテ}十^{ヨミテ}五^{ヨミテ}代^{ヨミテ}也^{ヨミテ}孝^{ヨミテ}謙^{ヨミテ}乃^{ヨミテ}清^{ヨミテ}代^{ヨミテ}の^{ヨミテ}より^{ヨミテ}天^{ヨミテ}平^{ヨミテ}勝^{ヨミテ}實^{ヨミテ}より^{ヨミテ}延^{ヨミテ}喜^{ヨミテ}より^{ヨミテ}
年^{ヨミテ}も^{ヨミテ}く^{ヨミテ}百^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}を^{ヨミテ}五^{ヨミテ}代^{ヨミテ}乃^{ヨミテ}同^{ヨミテ}五^{ヨミテ}十^{ヨミテ}六^{ヨミテ}年^{ヨミテ}を^{ヨミテ}あ^{ヨミテ}り^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}
や^{ヨミテ}と^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}孝^{ヨミテ}謙^{ヨミテ}の^{ヨミテ}第^{ヨミテ}十^{ヨミテ}代^{ヨミテ}也^{ヨミテ}平^{ヨミテ}城^{ヨミテ}より^{ヨミテ}延^{ヨミテ}喜^{ヨミテ}より^{ヨミテ}十^{ヨミテ}代^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}
と^{ヨミテ}か^{ヨミテ}け^{ヨミテ}る^{ヨミテ}平^{ヨミテ}城^{ヨミテ}世^{ヨミテ}延^{ヨミテ}喜^{ヨミテ}十^{ヨミテ}五^{ヨミテ}代^{ヨミテ}和^{ヨミテ}十^{ヨミテ}仁^{ヨミテ}明^{ヨミテ}十^{ヨミテ}七^{ヨミテ}文^{ヨミテ}德^{ヨミテ}八^{ヨミテ}清^{ヨミテ}和^{ヨミテ}十^{ヨミテ}八^{ヨミテ}陽^{ヨミテ}成^{ヨミテ}ハ^{ヨミテ}孝^{ヨミテ}謙^{ヨミテ}
字^{ヨミテ}多^{ヨミテ}十^{ヨミテ}醍^{ヨミテ}醐^{ヨミテ}清^{ヨミテ}生^{ヨミテ}佐^{ヨミテ}の^{ヨミテ}ち^{ヨミテ}八^{ヨミテ}年^{ヨミテ}合^{ヨミテ}せ^{ヨミテ}十^{ヨミテ}代^{ヨミテ}之^{ヨミテ}年^{ヨミテ}ハ^{ヨミテ}百^{ヨミテ}年^{ヨミテ}あ^{ヨミテ}る^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}
と^{ヨミテ}せ^{ヨミテ}あ^{ヨミテ}り^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}孝^{ヨミテ}謙^{ヨミテ}より^{ヨミテ}の^{ヨミテ}年^{ヨミテ}終^{ヨミテ}を^{ヨミテ}合^{ヨミテ}せ^{ヨミテ}て^{ヨミテ}わ^{ヨミテ}く^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}一^{ヨミテ}志^{ヨミテ}名^{ヨミテ}序^{ヨミテ}
あ^{ヨミテ}る^{ヨミテ}數^{ヨミテ}過^{ヨミテ}百^{ヨミテ}年^{ヨミテ}と^{ヨミテ}か^{ヨミテ}け^{ヨミテ}る^{ヨミテ}は^{ヨミテ}集^{ヨミテ}の^{ヨミテ}貞^{ヨミテ}觀^{ヨミテ}清^{ヨミテ}時^{ヨミテ}文^{ヨミテ}屋^{ヨミテ}有^{ヨミテ}季^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}
万^{ヨミテ}葉^{ヨミテ}ハ^{ヨミテ}い^{ヨミテ}に^{ヨミテ}を^{ヨミテ}り^{ヨミテ}は^{ヨミテ}は^{ヨミテ}く^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}と^{ヨミテ}同^{ヨミテ}せ^{ヨミテ}る^{ヨミテ}よ^{ヨミテ}と^{ヨミテ}云^{ヨミテ}ふ^{ヨミテ}和^{ヨミテ}月^{ヨミテ}時^{ヨミテ}あ^{ヨミテ}り^{ヨミテ}

といふなりはなれ名をふまなりといふこれと奏とれハ万葉
 名えの所時の撰なりとより孝謙乃清時とれハ昇龍叶ふ如く
 孝謙より清和とくも十六をへく百年ありの事あるハ同世なりこ
 こハ世継ゆふむり孝謙より清和と野乃女帝乃清代天平勝寶五年ハ大正
 十三年諸卿大夫等所よりて万葉集をえりせふとて四史
 乃正文よりあされとも世継ゆふりハ系譜出く如れハえり
 こよりすはねり諸卿大夫といふハ家柄なりとや諸兄ハ天平寶字
 元年より卒と撰し初めより五年あり家持ハ系譜中絶言なく昇
 龍といふ万葉ハ大矢等とて乃昇ハ万葉より帝王乃昇とて
 十代よりなりお十二代ハ謚号とのせむる聖武孝謙をハ清和
 乃昇とてけり延喜乃比まるといふとくまうすを万葉と
 乃失ひとて人なりとてゆふられハ和歌の所時弘法
 大師がまじりといふは假名なりとのち貴賤皆くを好む

[illegible][illegible]

をさくしふをばりし事いふ事なりをばりし事いふ事なり
ちりし事いふ事なりし事いふ事なりし事いふ事なり
人いふ事なりし事いふ事なりし事いふ事なりし事いふ事なり
事いふ事なりし事いふ事なりし事いふ事なりし事いふ事なり
事いふ事なりし事いふ事なりし事いふ事なりし事いふ事なり

NANYODO BOOK-STORE
MOTOMACHI BUNKYO
TOKYO

楠林南陽堂

¥ 8,000 の
40/11
10.13
冊
八代筆抄

